

## スペインの再エネ最新事情: 風力は過去 3 ヶ月間発電量でトップに; 補助金に頼らないメガソーラーも実現の見通し<sup>1</sup>

新エネルギー・国際協力支援ユニット  
新エネルギーグループ

2月4日付の英 The Guardian 紙によれば、スペインでは過去3ヶ月間、風力発電による発電量が初めて他のすべての電力源を上回った。スペイン風力エネルギー協会が、グリッド運営会社 Red Electrica de Espana のデータに基づいて発表した。

同協会によると、今年1月の風力発電による月間発電量は6テラワット時(TWh)を超え、原子力と石炭火力の両方を上回った。風力が国の総発電量の4分の1以上を占めたことになる。スペインは2020年までに国の電力供給に占める再エネの比率を現在の25%から40%に引き上げる目標を掲げているため、今回の達成は同国の再生可能エネルギー産業にとって重要な出来事といえるだろう。

近年、スペインの再生可能エネルギー部門は手厚い固定価格買取(FIT)制度によって急成長を遂げてきた。同国の再エネ年間導入量は2007年に風力発電が世界1位、2010年には太陽光発電も世界1位を記録するなど、世界トップクラスの導入量を誇ってきたが、一昨年、その「バブル」がはじけた。補助金により膨らんだ膨大な赤字を削減するために、政府はその後数回にわたってFITを削減し、昨年1月末にFITの新規申請の受付を凍結した。また、昨年12月には、2013年1月1日から再エネを含めたあらゆる発電方法による売電収入に7%の税を課すエネルギー法案を可決。今年1月にも、FITのさらなる削減を発表した。

こうした状況下で、一部のプロジェクトは政府の補助金に頼らずに事業化の見通しを立てている。現在、国内企業の Gestamp Renewables 社、Solaria Energia Medio Ambiente (SLR) 社のほか、ドイツの Gehrlicher Solar 社など複数の開発会社が合計 37.5GW 相当のメガソーラー・プロジェクトに取り組んでいるが、これらのプラントのうちのいくつかは、おそらく欧州で初めて補助金なしで運営される大規模太陽光発電プロジェクトになるだろうと、Bloomberg New Energy Finance は予想している。

前述のSolaria社はトレド近郊に50MWのソーラーパークを総工費1億5000万ユーロ以下で建設し、1メガワット時(MWh)当たり55-60ユーロでの売電を計画している。2010年時点で、スペインの電力価格はコンバインド・ガスタービン単独が約74ユーロ/MWh、石

---

<sup>1</sup>本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

炭火力単独が約 57 ユーロ/MWh<sup>2</sup>であったので、上記のレートは市場で十分に競合できる価格である。プラントは 2013 年下半期に完成を予定している。

スペインの再生可能エネルギー産業は補助金の削減や新たな税金への対応に苦慮しながらも、さらなる成長の機会を模索している。

(ニュースソース : The Guardian 2/4、pv magazine 1/22、1/17、Bloomberg2012/12/21、日経ビジネス 2012/12/17)

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

---

<sup>2</sup> 日本産業機械工業会(The Japan Society of Industrial Machinery Manufacturers)の資料による